

## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月10日

上場会社名 ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社  
 コード番号 3390 URL <http://www.u-s-systems.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊奈 聡  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 牧島 明  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 03-6892-3864

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	2,428	92.3	240	—	250	—	309	—
25年3月期第3四半期	1,263	△66.5	△187	—	△188	—	△419	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 410百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 △418百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	6.73	—
25年3月期第3四半期	△10.93	—

(注) 当社は、平成25年10月1日付で1株につき100株の割合で株式分割を行っております。平成25年3月期第3四半期の1株当たり四半期純利益につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算出しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	1,585	442	15.7	5.42
25年3月期	646	△19	△9.3	△1.31

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 249百万円 25年3月期 △60百万円

(注) 当社は、平成25年10月1日付で1株につき100株の割合で株式分割を行っております。平成25年3月期の1株当たり純資産につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算出しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

26年3月期の配当につきましては、未定であります。配当については、決定次第速やかにお知らせいたします。

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	62.2	200	—	195	—	180	—	3.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2社 (社名) 株式会社ビューティーホールディングス、除外 1社 (社名)  
株式会社ベストリザーブ

(注) 当四半期連結累計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。  
詳細は、[添付資料]P. 3「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	45,983,200 株	25年3月期	45,983,200 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	— 株	25年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	45,983,200 株	25年3月期3Q	38,336,100 株

(注) 当社は、平成25年10月1日付で1株につき100株の割合で株式分割を実施しております。上記の株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### <業績の概況>

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）における我が国経済は、政府による各種政策の実施に伴い、個人消費や企業収益面を中心に持ち直しの動きが見られ、景気の回復基調が窺えました。また、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要等により、消費者マインドは上昇基調での推移が見込まれておりますが、その後の反動による個人消費の動向や世界経済の見通しには引き続き留意が必要とされるなど、依然として景気下振れのリスクが残る状況が続いております。

このような事業環境のもと、当社グループは、飲食事業者向けASPサービスや、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売を中心に、お客様のニーズにお応えする総合的なソリューション提案を行ってまいりました。

また、第1四半期連結会計期間より、集客・予約サービスなどの面で既存事業とのシナジーが発揮できる美容業界とホテル業界という新たな事業領域に進出いたしました。さらに、スマートフォンを中心とした携帯電話等の販売も堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,428百万円（前年同期比92.3%増）となり、営業利益240百万円（前年同期は営業損失187百万円）、経常利益250百万円（前年同期は経常損失188百万円）、四半期純利益309百万円（前年同期は四半期純損失419百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、前連結会計年度をもって「人材事業」からは撤退しており、また、第1四半期連結会計期間より、従来の「システム事業」と「直販事業」に加え、新たに予約サイトの運営などのサービスを提供する「メディア事業」を展開していることから、これら3事業を報告セグメントとしております。

#### ①システム事業

システム事業セグメントは、飲食事業者向けのASPサービスや、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売を中心に、店舗運営をサポートするソリューション提案を行っております。

飲食店向けに販売情報を収集して分析するPOS・オーダーエントリーシステム「ダイニングPOS」並びに「ダイニングレジスター」や、店舗情報を複数のグルメサイトに一括掲載・更新ができる「店長なび」等の販売に注力してまいりました。

なお、当第3四半期連結会計期間において、大手飲食事業者向けASPサービス事業を譲渡いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は828百万円（前年同期比51.8%増）、セグメント利益は171百万円（前年同期比46.4%増）となりました。

#### ②メディア事業

メディア事業セグメントは、美容業界やホテル業界に特化した予約サイトの運営や広告サービスを行っております。国内の宿泊予約サイト「ベストリザーブ・宿ぷらざ」では、積極的な広告投資を行いながら、顧客獲得に向け注力してまいりました。

なお、当第3四半期連結会計期間において、インターネットを活用した美容関連事業を譲渡いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は475百万円、セグメント利益は43百万円となりました。

#### ③直販事業

直販事業セグメントは、主にスマートフォンを中心とした携帯電話端末や周辺機器・モバイルデータ通信端末の販売を行っております。昨今は、高速データ通信網の普及が進み、サービス競争もますます激しさを増しておりますが、独自のサービス展開により、スマートフォンを中心とした携帯電話等の販売数が堅調に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,132百万円（前年同期比84.1%増）、セグメント利益は132百万円（前年同期はセグメント損失80百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

	前連結会計年度末	当第3四半期連結会計期間末	増減
	百万円	百万円	百万円
総資産	646	1,585	939
負債	665	1,143	477
純資産	△19	442	461

総資産は、主に現金及び預金の増加により、前連結会計年度末に比べて939百万円増加し1,585百万円となりました。

負債は、主に未払金の増加により、前連結会計年度末に比べて477百万円増加し1,143百万円となりました。

純資産は、主に四半期純利益309百万円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて461百万円増加し442百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年度3月期の通期業績予想については、平成25年11月7日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、新たに株式を取得した株式会社ビューティーホールディングス及びその子会社である株式会社アップヒルズ並びに株式会社ベストリザーブを連結の範囲に含めております。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において継続的に営業キャッシュ・フローのマイナスとなり、継続して営業損失及び当期純損失を計上した結果、前連結会計年度末は債務超過となったため、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況となっております。当第3四半期連結累計期間においては、既存事業の見直しと新たな事業領域での事業基盤構築による収益の確保によって損益が改善し、債務超過を解消しております。しかしながら業績が回復して間もなく、経営基盤の再建途上であると判断していることから、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると認識しております。

当該重要事象等を解消すべく、当社グループでは下記の対応策を実施することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

#### ①事業の拡大並びにサービス改善による収益力の向上

当社グループは、選択と集中により既存事業の見直しを行う中で、大手飲食業者向けに売上管理・受発注・予約・顧客管理業務を行うASP事業を譲渡いたしました。システム事業においては中小型店向けのソリューションサービスに経営資源を集中し、当社のシステム開発・運営力を活かした新たな事業の展開にて事業基盤の拡充を進めてまいります。

また、当期より連結子会社となりました株式会社ベストリザーブで新たに展開しているメディア事業では、業種に特化した予約サイト「ベストリザーブ・宿ぶらざ」の運営や広告サービス等を行っております。Webサイトでの集客・予約サービスにおいて、既存事業とのシナジーを発揮して収益源を確保しております。今後は、Webサイトのユーザビリティを向上させるなど、サービスを改善してまいります。

さらに、連結子会社である日本企業開発支援株式会社にて、起業家支援サイト「独立支援.net」の運営及びスマートフォン、タブレット端末等の販売を行っており、引き続き販売網を拡大してまいります。

#### ②コストの削減

事業規模に見合った人員体制を維持するとともに、引き続き諸経費削減の取組みを徹底してまいります。

#### ③資金調達

当面の運転資金は確保できておりますが、親会社である株式会社光通信に対して当社グループの状況を適時に報告して良好な関係を維持し、同社からの継続的な財務支援が得られるよう、資金繰りの安定化に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	72	600
売掛金	319	509
たな卸資産	0	2
その他	77	122
貸倒引当金	△7	△9
流動資産合計	463	1,225
固定資産		
有形固定資産	18	50
無形固定資産		
のれん	50	75
その他	41	20
無形固定資産合計	92	95
投資その他の資産		
投資有価証券	34	116
破産更生債権等	184	171
その他	36	97
貸倒引当金	△184	△171
投資その他の資産合計	71	214
固定資産合計	182	360
繰延資産	0	0
資産合計	646	1,585
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	97	111
1年内返済予定の長期借入金	107	120
未払金	237	487
未払法人税等	12	31
賞与引当金	9	18
ポイント引当金	—	5
その他	16	93
流動負債合計	481	866
固定負債		
長期借入金	181	270
その他	2	6
固定負債合計	184	276
負債合計	665	1,143
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,454	1,454
資本剰余金	1,973	1,973
利益剰余金	△3,488	△3,178
株主資本合計	△60	249
少数株主持分	40	192
純資産合計	△19	442
負債純資産合計	646	1,585

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	1,263	2,428
売上原価	752	1,208
売上総利益	511	1,220
販売費及び一般管理費	698	979
営業利益又は営業損失(△)	△187	240
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	—	21
その他	19	1
営業外収益合計	19	23
営業外費用		
支払利息	15	12
その他	5	0
営業外費用合計	20	13
経常利益又は経常損失(△)	△188	250
特別利益		
子会社株式売却益	15	—
事業譲渡益	20	182
その他	6	9
特別利益合計	42	192
特別損失		
投資有価証券売却損	8	0
のれん償却額	213	—
その他	50	0
特別損失合計	272	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△418	442
法人税、住民税及び事業税	4	31
法人税等合計	4	31
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△422	410
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△3	100
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△419	309



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△422	410
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	—
その他の包括利益合計	3	—
四半期包括利益	△418	410
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△415	309
少数株主に係る四半期包括利益	△3	100

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム 事業	人材 事業	直販 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	540	107	614	1,263	—	1,263
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	5	0	0	6	△6	—
計	545	108	615	1,269	△6	1,263
セグメント利益 又は損失(△)	117	△48	△80	△12	△174	△187

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△174百万円は、セグメント間取引消去8百万円、各セグメントに配分していない全社費用△183百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム 事業	メディア 事業	直販 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	822	475	1,131	2,428	—	2,428
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	6	0	0	7	△7	—
計	828	475	1,132	2,436	△7	2,428
セグメント利益	171	43	132	347	△107	240

(注) 1 セグメント利益の調整額△107百万円は、セグメント間取引消去△0百万円、各セグメントに配分していない全社費用△107百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「人材事業」を廃止し、「メディア事業」を新たに追加しております。これは、前連結会計年度において「人材事業」から撤退したこと、第1四半期連結会計期間に株式会社ビューティーホールディングス及び株式会社ベストリザーブを連結子会社としたことに伴い、当該連結子会社が営む「メディア事業」に進出したことによるものであります。

以上の結果、第1四半期連結累計期間より「システム事業」、「メディア事業」及び「直販事業」の3つを報告セグメントとしております。